

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人間としての生き方を考える道德教育と同和教育③ ～ナインの関係とクラスの関係～

英夫と正太郎の関係について思うこと

資料「ナイン」について語り合った道德授業、騙されたにもかかわらず、正太郎を許し感謝さえする主人公の英夫について様々な意見が出されています。

S・Nの語り「英夫と正太郎の関係は同和问题学習で積み上げてきた関係と似ている」

私は英夫の感謝するという意味がわかりませんでした。私が英夫の立場だったら警察に届けると思いました。それは英夫に陰をつくってくれたのは正太郎だったけど、ナインのメンバーも一緒に陰をつくってくれたので、正太郎一人よりもたくさんのナインの方を選ぶと思ったからです。

そんなことを考えているときに、「もし私が部落の人間として、いろいろと悩んでいて、『私は部落の人間です』って、この3年B組のみんなに打ち明けた時、みんなが温かいまなざしで、『何言よん、そんなこと関係ないよ、これからいっしょに学んでいこう』と言ってくれたとき、それが陰をつくってくれたことになると思うよ』って言ってくれたんです。

その時、私はハッとしました。英夫と正太郎の関係は、私たちが同和问题の学習で築き上げてきた関係とよく似ていると思うんです。どんなことがあっても否定できない、どんなことがあっても切れることのない関係というものが、人間には必要なんだと思うんです。

私たちは今まで一生懸命に同和问题の学習に取り組んできました。私の住んでいる町には部落と言われて差別されている地域があります。この学習に真剣に取り組み始めたのは、差別を受けて悲しんでいる友の叫びを聞いてからです。

今思うといろんなことがあったけど、頑張ってきてよかったと思います。この学習を始めてからナインのような関係ができてきたと思います。一人の子が自分のことを告白する、周りのみんなが支える。そして、その子の笑顔がみんなの支えになります。ナインと同じだなあとと思います。

部落差別の現実を語った仲間に

資料「ナイン」の中には出てこない同和问题を語った発言に、すかさず挙手をし、思いをつないだ仲間の語りです。

Y・Iの語り「ナインの関係と3年B組の関係」

私も、ナインの関係が、私たち3年B組の関係であってほしいと思いました。私も、どうして英夫は正太郎のことを許すのかなあと考えていたけど、正太郎に支えてもらったということはすごく嬉しいことだったと思うんです。

私も、2年生からずっと同和问题学習の公開授業とか全体学習とかをやってきて、支えてもらったことがたくさんあって、そのときのことが今もはっきりと心に残っています。英夫というのはやっぱり正太郎が支えてくれたことがすごく嬉しかったんだと思います。

この二人の語りは、仲間の同和问题学習への思いや願いを引き出し、道德教育と同和教育についての意見が、生徒の言葉で語られています。

